



NEWS LETTER vol. 27

これからの地方自治・地方政策を考える

第2回連続自治体特別企画セミナー (KPIセミナー)

報告



裏面 第1回めざませ!「若人町民100人ミーティング」振り返りの様子

調査研究について

KPIは、地域における政策研究のシンクタンク機能を担う京都府立大学の研究センターとして調査研究活動を行っています。協働研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

後援等について

KPIでは、共催や後援、協賛、協力というかたちで、地方自治体や企業、NPOと連携しながらイベント等を開催しています。

ご希望の方はKPIホームページの「諸手続き」にある、「後援等申請書」にご記入の上、メール又はFAXにてご連絡ください。

京都府立大学
京都政策研究センター (KPI)

〒606-8522

京都市左京区下鴨半木町1-5

Tel & Fax : 075-703-5319

mail : kpiinfo@kpu.ac.jp

セミナーのご案内やニュースレターなどをメールマガジンで配信しています。ご希望の方は、上記メールアドレスまでご連絡ください。

近年、中山間地を中心に、小規模多機能自治と呼ばれる住民が主体となった新たな地域組織モデルが注目を集めています。そこで当センターでは、小規模多機能自治の推進を支援するIIHOE〔人と組織と地球のための国際研究所〕代表の川北秀人氏、先駆的な取組を進める島根県雲南市の板持周治氏（政策企画部地域振興課主査）、(株)日本経済研究所の鈴木真人氏（社会インフラ本部長）、前田幸輔氏（地域本部主任研究員）をお迎えして、第2回KPIセミナー『地域創生と住民主体のまちづくり～小規模多機能自治の最前線～』を9月16日に開催しました。

当日は本学と地域連携協力に関わる包括協定を結ぶ京都府内の自治体（京丹後市・舞鶴市・長岡京市・南丹市・宇治田原町・久御山町等）の職員や地域まちづくり協議会、NPO等から83名の参加があり、関心の高さが窺えました。

冒頭の講演で、IIHOEの川北氏からは、地域を「誰かがどうにかしてくれる」と思うのではなく、地域で支え合う人間関係があるかどうか重要であり、今後は人の関係性の「密度」を高める視点が求められるという提起がありました。続いて雲南市の板持氏からは、2004年の町村合併を機に始まった同市の取組や仕組み、その根底にある「協働のまちづくり」の考え方の説明、現在30ある地域自主組織の紹介がありました。

また、日本経済研究所の前田氏からは、地域社会を構成する行政、事業者、地域の3つの領域を「歯車」に喩え、少子化・高齢化で「歯車」自体が小さくなっている現状で3つの「歯車」を回すためには小規模多機能自治という新たな「歯車」が必要であるとの指摘がありました。後半のパネルディスカッションでは、「小規模多機能自治を住民にどのように伝えたらよいか」、「雲南市では自治体職員の労力は軽減されたのか」等、参加者からの実践的な質問もあり、京都府内での展開可能性について考える機会ともなりました。共催：株式会社日本経済研究所（文責：上席研究員 鈴木暁子）

* 講演概要はホームページに掲載予定です。



【参加者の感想】

- ・人口減少、少子高齢化の社会が何か恐ろしい未来像に思えて、しかし現実には迫ってきています。住民が自ら自分たちの自治体を守り、作りあげていかなければ、立ち向かわなければ未来はないのかと、うかうかしてられないというのが強烈な印象でした。
- ・地域力をどのようにして強化するかが課題であり、地域内での体制づくり、地域間での支援体制づくりなど、仕組みづくりから進める。取り組むべき内容、事項が見えてきた。
- ・小学5、6年生に自分の住んでいる町の産業（農業）に対する理解を深めるための学習、実践活動をされている自治体の説明があったが、まず学校でその取組むべきことに対し、保護者、地域もその理解を深める活動の活力になっていくと感じた。
- ・2035年には京都市でも85歳以上が13万人を超えるという事実を突きつけられると、漠然とは感じていたものの、数字で具体的にイメージできるだけにショックを受けた。「人口減、85歳以上増に備えるには、時間の使い方を変えるしかない」というメッセージは大変良く理解できる。



これからの地方自治・地方政策を考える

第3回連続自治体特別企画セミナー (KPIセミナー)



10月13日、第3回KPIセミナー『フューチャーデザインと地域創生～7世代先から自治体政策を考える～』を開催し、46名の方に参加頂きました。

前半は、フューチャーデザイン（※）の概念を産み出した西條辰義氏（高知工科大学フューチャー・デザイン研究センター教授）にご講演頂き、真のステークホルダーとして将来世代を捉える重要性和、持続可能性を考える新たな仕組みとしてのフューチャーデザインの可能性について提起がありました。



後半は、吉岡律司氏（岩手県中町企画財政課 課長補佐兼政策推進室長補佐）から、持続可能な自治体計画策定における住民参加と合意形成の事例として、同市での水道事業においてフューチャーデザインの手法を用いたワークショップや取組の紹介がありました。続いて、杉岡本センターリサーチフェローを交えた質疑応答では、「フューチャーデザインに適した政策領域」「ファシリテーターの育成」「将来世代になり得る条件設定」という実践的な話題から、「地域の合意形成における行政の立ち位置」「サイエンスとしてのフューチャーデザイン」などにも話が及び刺激的な意見交換の時間となりました。

（文責：上席研究員 鈴木暁子）

*第3回セミナーの動画はホームページでご覧いただけます。

※フューチャーデザインとは「すべての人々、現役世代ばかりでなく将来世代を含む世代を念頭におき、彼らの幸福を熟慮する」という考え方で、間接民主主義や市場、近視性の課題を克服する方法として注目されています。

【参加者の感想】

- ・町の次の総合計画（後期見直しの時期）に向けて、住民の主体的で本気の参画が必要だと思った。
- ・組織的ビジョン策定にも応用できると考えて参加したが十分な内容で、企業と地域や経済のあり方についても考える観点もあり、たいへんワクワクする話だった。

受託研究

京都市市町村職員の海外視察研修を実施



チャタヌーガ市長、市民の方々と

9月28日から10月8日の11日間、京都市市町村振興協会「海外行政調査研究プログラム」として、アメリカへの海外視察を実施しました。府内の市町の職員14名とともに、青山センター長が講師を務め、シアトル、アトランタ、ロサンゼルス3都市に数日ずつ滞在。州や市、周辺都市など全11箇所について、行政の担当部署や官民連携組織、NPOなどの職員を訪問し、広域連携、企業誘致、農産物消費拡大、市民参画、防災対策など幅広い分野で調査研究を行いました。

最も印象的だったのはテネシー州チャタヌーガ市です。チャタヌーガ市は、1970年代に公害汚染や人口減少で衰退していましたが、1984年に若者を中心とした市民参加により策定した「ビジョン2000」の実行により、激的な復興をとげました。復興計画に携わった市民、NPO、行政など10人ほどの関係者からは、計画を立てる段階から多くの市民が関わり、自分ごととして進めてきたこと、若者の意見を反映させ着実に実行したこと、ワークショップの具体的な進め方などについて報告がありました。計画の実行については、地域や関係者の熱意ある人で体制を作り、財源、協力者、期限を明確にして取り組んだというプロセスなどは、今後の調査研究の参考になりそうです。

その他、市民や関係者が活用することを前提として、統計数値や収集したデータは基本的にインターネットで全て公開・共有されており、日本の情報公開のあり方を考えさせられました。国の仕組みは違っても同じような課題に取り組んでいる事例を調査することができ、参加の職員が自分達の地域の課題にも活かせる事例、またはヒントとなるような視点を学ぶことができる研修となりました。（主任研究員 河西聖子）

地域関連課題等研究「若者パワーを活用した“地域まるごとブランド戦略”による地域活性化」

第1回めざせ！「若人町民100人ミーティング」を開催



10月20日、伊根町コミュニティセンターほっと館にて第1回めざせ！「若人町民100人ミーティング」を伊根町との共催で実施し20名が参加しました。本ミーティングは、伊根町の将来の中軸を担う20～40歳の伊根町在住の方を対象に、日頃抱えている問題意識や発想をまちづくりに活かすことを目的として全3回にわたって開催するものです。第1回は「想いを語り合おう」をテーマにワークショップを行い、本学大学院生命環境科学研究科博士前期課程1回生の小牧満也さんとKPIの長谷川研究員がファシリテーターを務めました。ワークショップでは伊根町の<良いところ><何とかしたいところ>をグループで出し合い、発表後最も共感できるものに個別に投票、さらに投票結果のランキング一覧から気になるテーマを1つずつに絞り込んでグループで話し合いを深めました。ワークショップの振り返りでは「伊根町を良くしようと思っている仲間がいることが嬉しかった」「同じことに対する思いでも視点の違う見方があることを知った」「このような話し合いがもっと必要だと思う」などの感想が出されました。第2回は11月29日、「伊根町の理想の未来って？」をテーマに開催予定です。

KPIリレーコラム

「ばら展」



京都政策研究センター研究員 長谷川 里奈

10月末、京都府立大学ローズサークルの第119回「ばら展」に行ってきました。ローズサークルは歴史あるサークルで、昭和32年の創立以来、春と秋の年2回ばら展を開催されています。初めての参加でしたが、会場には想像を越えるたくさんの種類、色とりどりの薔薇が展示され、甘い香りに包まれて、なんとも贅沢な空間に心がときめきました。

そして実は今回のばら展、教職員企画として食保健学科の東先生と共にミニコンサートを出展し参加させて頂きました。美しい薔薇を堪能させてもらった後、ピアノと歌で「野ばら」など、薔薇と花にまつわる曲を演奏してもらいました。東先生と同じ委員会メンバーの山城地域戦略会議の委員とその友人によるソプラノ&ピアノ演奏の友情出演もあり、豪華なプログラムになりました。会場の皆さんは温かい雰囲気でも耳を傾けてくださり、最後は東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」の合唱で締めくくりました。短時間でしたが、音楽を通じた一体感のような感覚を味わうことができ嬉しかったです。趣味で歌を続けてきましたが、「まさかこんな素敵な会場で歌わせてもらえる日がくるなんて！」と感激しつつ、楽しく幸せなひと時となりました。今回快く受け入れて心くばりをしてくださったローズサークルの皆さん、私達の演奏を聴いてくださった来場者の皆さんに心より感謝申し上げます。

京都府立大学ローズサークルの「ばら展」、是非一度足を運んでみてください！心が和みますよ^^